

The 8th Master Class on Ageing in Asia を終えて

小笠原真雄

(日老医誌 2017; 54: 424)

2017年3月24日から26日にかけて台湾の高雄で開催された「The 8th Master Class on Ageing in Asia」に参加させて頂きました。まず、今回のMCAにおいてお世話になった日本老年医学会の方々、講師の方々、そして現地で好意的におもてなしをしてくださった台湾の方々に御礼申し上げます。

MCAに参加した理由として、一つ目に高齢化社会を迎えるに当たりより多くの老年医学の知識や経験を吸収し自身の育成を図るため、二つ目にアジア全体の高齢化社会の問題点を各国の老年科医の方々と交流し、問題点や経験を共有し今後の医療に役立てるため、三つ目に各々が研究しているテーマや内容を共有することで、自身が行っている研究をより深く、より良いものにすることができるのではないかと考えたためです。

MCAには日本、中国、モンゴル、韓国、台湾、香港、フィリピン、タイ、マレーシア、インドネシアなどアジア全体から老年医学に興味のある方々が参加しており、3日間を通して高齢者医療、認知症、サルコペニア、フレイル、在宅医療などの講義とともに、ケースレポートに対するグループディスカッション、自身の研究発表があり、たくさんの意見や経験を共有し、自身の知識を深めることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。当初の目標も達成できたと思います。

それ以外にも写真にもあるように夕飯と称する飲み会があり、講義などでは聞けないような普段の生活や病院



写真 グループのメンバーと食事の席で

での医療体系、研究内容など楽しい話をたくさんすることができ、3日間という短期間の中でより深く交流することができました。

最後に初めての台湾だったのですが、夜中に有名なマッサージ店に行ったり、勉強以外にもいろいろ台湾らしいことをすることができたためいい思い出にもなりました。

非常に有意義な経験ができ、本当にこの会に参加してよかったなと感じています。お世話になった先生方、スタッフの方々、本当にありがとうございました。